

～「看護の日」にイベントが行われました～



ナイスパスです

大盛況のバザー

隣の人にお手玉を渡して!



熱いフラメンコ

高校生の一日看護師体験

日ごろの練習の成果を発揮

～施設基準「総合リハビリテーション施設」の認定を受けました!!～

今年度より、当院リハビリテーション科のスタッフ数は、PT17名、OT8名、ST3名、助手5名の総勢33名となり、日々、若さあふれる雰囲気の中運営しています。
平成17年6月1日に「総合リハビリテーション施設」の施設基準を取得し、今後より一層質の高いリハビリテーションを提供し、地域に貢献できるよう、スタッフ一丸となって取り組んでいきます。

薬剤師の

おくすりいろいろ話 其の三

今回は表紙の特集が食中毒だったので、**食中毒の時にのおくすり**についてです。

「食中毒」は夏場に多い病気ですが、1年中発生しています。主な症状は下痢・嘔吐などですが、下痢をしたから、と**いってすぐに下痢止めを飲めばよいというわけではありません**。なぜなら、「下痢」という症状は「**体の中の害になるものを外へ捨てる**」という働きをしているからです。そのため、害になる食中毒菌を体の外へ出すために下痢になっているのに薬で下痢を止めてしまうといつまでたっても菌が体の外へ出て行かず、症状が治らない、もしくは悪くなってしまう可能性があります。**食中毒かもしれない、と思ったら薬を飲まずにすぐに病院・医院へ行くようにしてください**。また、ひどい下痢・嘔吐が続くと体の水分が足りなくなり、「脱水症状」になります。この場合は点滴などで水分を補給する必要があるため、**早めに受診することが大切!**ですよ。

～編集後記～

徳山医師会病院の駐車場出口に小さな花壇があって、目を楽ませています。今の時期はゼラニウムやイソトマ、ポーチュラカ等です。また、中央の庭にはカシワバアジサイが仲間入りしました。本館東側のリハビリ広場も花を楽しむ事ができます。何れも職員の手によるものです。

梅雨の代表・紫陽花は7月1日の誕生花、花言葉は「辛抱強い愛情、元気な女性」です。夏の代表・朝顔は8月4日の誕生花、花言葉は「愛情、平静」です。女性の多い医療福祉にぴったりの花ですね。

私達も安心や信頼を感じていただけるようがんばりたいと思います。

編集委員

栄養管理科の健康レシピ

～今回のテーマ～

食欲をそそる旬の野菜を使った簡単レシピを紹介します

春野菜の細切り炒め



材料/4人分

キャベツ...100g ニンジン...20g ワケギ...2本
切干大根(乾燥)...5g おろしニンニク...適宜
ゴマ油...大さじ1 しょうゆ...大さじ1.5
みりん...大さじ1

作り方

切干大根はたっぷりの水で戻したら、軽く水気をきる。
キャベツは7mm幅の太め千切り、ニンジンは細切り、ワケギは4cm長さに切る。
フライパンにゴマ油をひき、中火でおろしニンニクとニンジンを炒める。
ニンジンに軽く火が通ったらキャベツ、切干大根、ワケギの順でさっと炒める。
しょうゆとみりんを加えて混ぜ合わせて火を止める。

徳山医師会病院だより

2005年 第4号

発行元 地域医療支援病院

オープンシステム

徳山医師会病院

〒745-8510 周南市慶万町10-1

TEL 0834-31-2350

FAX 0834-31-1623

http://www.tokuyamaishikai.com/

《基本理念》

地域医療支援病院 オープンシステム 徳山医師会病院は医道の昂揚、医学・医療の発達普及及び公衆衛生の向上、社会福祉の増進につとめます。

1. 人間としての尊厳を守り、良質で適切な医療・看護を目指します。
2. 全人的医療を目指し、十分な情報を提供し、信頼関係に基づいた医療を行います。
3. 病診連携を図り、一致協力し、地域社会の要請に応えうる医療を提供します。

当院では受診の際、「開業医」の紹介が必要です。

当院での診察や検査をご希望の方は「かかりつけ医」若しくは「開業医」へご相談ください。

食中毒シーズンが近づいてきました!



あなたの“食中毒対策”は大丈夫?

知ってる?

食中毒を起こす主な菌には...

- サルモネラ菌 ...食肉やたまごなどが主な原因食品。腹痛や下痢を伴う。
- 腸炎ビブリオ菌...海産物が主な原因食品。激しい腹痛や下痢を伴う。
- 病原大腸菌 ...食肉やその他食品、水など多種の原因食品。腸炎を起こす。

知ってる?

O-157とは?

O-157は正式には腸管出血性大腸菌O-157といい、病原大腸菌のひとつです。感染すると激しい腹痛とともに血便となることがありますが、これはO-157が作り出す「**ペロ毒素**」という強力な毒素が大腸を攻撃するために起こる出血です。平成8年には「指定伝染病」に指定されたように、二次感染があるのも特徴です。

知ってる?

ノロウイルス(小型球形ウイルス)とは?

年間を通して活発で、生カキの関与が強く指摘されており、特に冬季を中心に感染者が増える傾向があります。潜伏期間は1~2日。下痢、吐き気、腹痛、発熱が起こり、3日以内で回復します。糞便により、人から人へ感染しやすい微生物です。

食中毒予防のポイント!

食中毒の予防には、次の3原則を守ることが大事です

- 細菌による汚染を防ぐ...生食品に注意する他、調理器具の清潔
- 細菌の繁殖を防ぐ...冷蔵庫を過信せず、食品は早めに使いきる
- 加熱処理をする...加熱は充分行い、目安は中心部温度が75度で1分以上加熱

まずは冷蔵庫の整理から!



スタッフ紹介

私たちはこんな仕事をしています。

岡本 智子 室長 看護師

他の病院からの転院や通院リハビリ、入院相談を担当しています。急性期病院から回復期リハビリテーション病棟への入院希望や慢性期病院へ転院予定だが継続治療の必要があり入院希望の場合など、登録医の依頼を受けて転院前訪問に伺ったり、主治医依頼先を決める相談に携わっています。

八木 亜也子 社会福祉士
精神保健福祉士

私は、入院中の方やご家族のご相談を受けています。現在、「退院後の生活はどうしたらいいのだろう?」「福祉制度がわかりにくい」など様々な相談があり福祉制度のご説明や関連機関との連絡を行っています。

お気軽にご相談ください。

患者さんやそのご家族
ならびに地域住民の方
が安心して生活できるよ
う私たちがお手伝いしま
す。



澤田 由佳里 社会福祉士
精神保健福祉士

回復期リハビリテーション病棟(西3)を担当しています。家庭復帰・社会復帰を目標としている患者さんやそのご家族に、必要な情報提供や諸々の制度紹介、関係機関との連絡調整を行っています。障害の受容など心理的な問題の解決のため病棟スタッフと共に取り組んでいます。

大谷 真理恵
社会福祉士

現在、育休中。7月から復帰予定です。



吉村 奈津子
社会福祉士

私は今年の4月から地域連携室に入りました新人です。よろしくお願ひします。

地域連携室 ごあんない

地域連携室は平成15年4月1日に開設されました。

地域連携室とはこんなところ

患者さんならびにそのご家族が病院や施設を含めた地域の中で、適切な医療・福祉が受けられるよう環境を整えたり、安心して生活できるよう地域との連携を図るためのコーディネートをします。

たとえばこんな相談・・・

- ・医師会病院にはどうやって入院すればいいの?
- ・かかりつけ医について相談したい。
- ・リハビリがしたいけど、どうしたらいいの?
- ・介護保険ってどんなもの? どういう手続きをすればいいの?
- ・医療費の支払いが心配。
- ・身体障害者手帳の申請はどうしたらいいの?
- ・障害年金ってどんなもの? どういう手続きをすればいいの?
- ・介護用品の購入やレンタルについて知りたい。
- ・家に手すりをつけたいのだけど・・・
- ・利用できる福祉制度はどのようなものがあるの?
- ・退院後に施設を利用したいけど、どんな施設があるの?



地域連携室は西館玄関に入って左側にあります。

地域連携室

TEL 0834-33-2132 (直通)

FAX 0834-33-2139 (直通)

E-mail renkei@tokuyamaishikai.com